

環境放射能の測定結果（速報）について（第2報）

平成18年10月11日
福島県原子力安全グループ

本県においては、原子力発電所周辺地域等に設置しているモニタリングポストにおいて空間線量率（*1）の常時監視を行っております。

また、10月10日から大気浮遊じん等を採取し、放射性核種分析（*2）調査を行っております。

これまでの測定結果は、以下のとおりであり、異常な測定値は検出されておられません。

1 空間線量率の測定結果（速報）

（単位 ナノグレイ/時）

	測定値 (10月10日16時 ～10月11日15時)	過去の測定値の範囲(*)		備考
		年間平均値	年間最大値	
広野町	39～40	40～41	73～101	二ツ沼局
楢葉町	43～44	41～45	63～104	繁岡局
富岡町	41～44	39～44	60～111	富岡局
大熊町	40～42	39～44	55～86	大野局
双葉町	40～42	42	74	郡山局
浪江町	43～46	45～52	74～146	浪江局
福島市	39～41	41	72	紅葉山局

(*)紅葉山局は平成17年度のデータ、他局は測定開始からのデータ

モニタリングポストは、原子力発電所周辺（双葉郡 広野、楢葉、富岡、大熊、双葉、浪江町）に23局、福島市内に1局設置しており、常時監視データは、県庁、原子力センター、関係町役場及び福島県原子力センターのホームページで公表しております。

2 放射性核種分析結果

測定項目	採取場所	採取日時	核種分析結果
大気浮遊じん	原子力センター (大熊町)	10月10日9時 ～10月11日9時	人工放射性核種は検出されず

(*1)空間線量率：1時間あたりの空気中のガンマ放射線の量のこと。福島県が設置している原子力発電所周辺地域のモニタリングポストにおいては、通常約30～150ナノグレイ/時が観測されており、大地などからの自然放射線が気象条件によって変動している。

(*2)放射性核種分析：ゲルマニウム半導体検出装置と呼ばれる測定装置により、大気浮遊じん等の試料中に含まれるガンマ線（放射線）を放出する放射性物質の種類と量を測定するもの。ウラン、プルトニウム等の核分裂によって、セシウム137等の放射性核種が生成する。なお、自然界にも、カリウム40や微量のウラン、トリウム等の放射性核種が存在している他、過去の核実験により生成したセシウム137（半減期約30年）等が極微量残存している。